

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
域	イキ さかい								域 王勃詩序
或	ワク ある あるいは								或 法華義疏
基	キ もと いも とづく								基 聖武天皇雜集
埼	さき								
崎	さき けわしい								崎 豊曾指歸
碯	さき								
執	シツ シユウ とる								執 法華義疏

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
域		域	域				域	域		域	域	域 現代中国
或		或	或	或	或		或	或			或	或 現代中国
基		基	基				基	基		基	基	基 現代中国
埼		埼	埼				埼					埼 現代中国
崎		崎	崎	崎	崎		崎				崎	崎 現代中国
碯		碯	碯									碯 現代中国
執		執	執	執	執		執	執	執	執	執	執 現代中国

【域】説文は「或」をあげ、「域」を或体(異体字)としているが、前漢以前には「域」の字体は見えない。唐代の五経文字の序には「惑體」という記述があり、「或」と「惑」が通用していた可能性がうかがえる。

【基】南北朝期は「土」に点の付く字体が多数派だが、唐代に

は点のない字体が多数派。

【執】大徐本と段注本で字体が異なる。金文などに合致しているのは大徐本。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆家	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
堰	エン せき せき 人①								
堪	カン たえる 常①		堪	堪	堪	堪	堪	堪	堪
堅	ケン かたい 常①		堅	堅	堅	堅	堅	堅	堅
堺	カイ さかい 人①		堺	堺	堺	堺	堺	堺	堺
界	カイ さかい 教3 常①		界	界	界	界	界	界	界
眈	カイ さかい ②		眈	眈	眈	眈	眈	眈	眈
場	ジョウ ば 教2 常①		場	場	場	場	場	場	場
場	ジョウ ば ②		場	場	場	場	場	場	場

【堪】 隣の「匹」をくずすと「正」の草書と字体が衝突する。字体衝突した草書からくずす前の字をたどり間違えると異体字ができる。そうしてできた異体が参考にあげた魏の正始石経か。
【堅】 なぜか康熙字典の土部の8画に集録されている。どう数

えても9画なのに。
【堺】 大徐本と段注本は字体が異なる。「堺」「界」「眈」は元々異体字。現代中国では「界」で統一されている。
【場】 大徐本と段注本で字体が微妙に異なる。篆書から隸書になる過程で「日」の最終画が省略されたらしい。干祿字書

平安中期 から 室町	江戸版本 1716年 部首・画数	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考	
	堰	堰	堰				堰					堰	堰 農家用文庫大全 現代中国
	堪	堪	堪	堪	堪		堪	堪	堪	堪		堪	堪 魏・正始石経 現代中国
	堅	堅	堅	堅	堅		堅	堅		堅		堅	堅 現代中国
	堺	堺	堺	堺	堺		堺	堺				堺	堺 漢・居延漢簡 現代中国
	界	界	界	界	界		界	界	界	界		界	界 奈良・魏玉集 平安・粘葉本明詠
	眈	眈	眈	眈	眈		眈	眈				眈	眈 江戸・日本武代蔵
	場	場	場	場	場		場	場	場	場		場	場 現代中国
	場	場	場	場	場		場	場				場	

に3例、五経文字に2例、合計で5例の似た字体が示されており、音の違いが説明されている。音が異なるのであれば異体字ではなく、別字種である。説文の字体に合致するのは長音の「場」である。

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隸書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
墮	ダ おちる		墮	墮			墮	墮	墮
墮			墮	墮			墮	墮	墮
塚	チュウ つか		冢	冢			冢	冢	冢
塚			冢	冢			冢	冢	冢
堤	テイ つつみ		堤	堤			堤	堤	堤
隄			隄	隄			隄	隄	隄
堵	トカキ		堵	堵			堵	堵	堵
堵			堵	堵			堵	堵	堵
塔	トウ		塔	塔			塔	塔	塔
塀	ヘイ		塀	塀			塀	塀	塀

【塚】元々は「土」のない字だったらしい。説文に従えば「冢」ではなく「冢」に従う字。元暦萬葉⑨で「冢」のような字を書いているが、「冢」が「冢」になったのかもしれない。
 【堤】説文には「堤」は「滯也」、「隄」は「唐也」とあり別字種として扱っている。干禄字書では「隄」を〈正〉、「堤」を

〈俗〉とする。明治の漢字では「隄」を〈正〉、「堤」を〈許容〉とするが、陸軍では反対に「堤」を〈正〉、「隄」を〈通〉とする。
 【堵】JIS2004で例示字体が「堵」から「堵」に変更された。
 【塀】国字とする字書と、国字としない字書がある。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41~ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
墮	墮	墮	墮	墮			墮	墮		墮		墮
								(墮)				
冢	冢	冢	冢				冢					冢
冢												
塚	塚	塚	塚				塚					塚
塚												
堤	堤	堤	堤	堤	堤		堤	堤	堤	堤	堤	堤
隄	隄	隄	隄	隄	隄		隄	隄				
堵	堵	堵	堵	堵	堵		堵	堵				堵
堵												
塔	塔	塔	塔	塔	塔		塔	塔	塔	塔	塔	塔
塀	塀	塀	塀	塀	塀		塀	塀				塀

親字	音訓	甲骨文・金文・古文 (殷・西周・春秋・戦国)	説文解字 篆書	隷書 (秦・前漢・後漢)	草書	行書	楷書 (南北朝から初唐)	正字体 楷書	日本上代 から 平安初期
報	ホウ むくいる しらせる								杜家立成
壘	ルイ とりで								巽替指歸
壘	人②								性靈集
塩	エン しお								東大寺藏物帳
鹽	②								東大寺藏物帳
臨	④								篆隸象名義
塊	カイ かたまり つちくれ								聖武天皇雜集
									伝嶋岫天皇
塞	サイ・ソク ふさぐ みぢがる ふさが とりで								王勃詩序
									江戶九條(傳省)
塑	ソ								

【報】大徐本と段注本で字体が異なる。金文と見比べると大徐本と合致しているようだ。

【塩】別体／許容は明治の漢字、國定教科書、陸軍にも掲載されている。

【塊】大徐本と段注本は字体は変わらないが、大徐本の或体が

段注本では俗字になっている。

【塞】甲骨、金文には「土」がない。

平安中期 から 室町	江戸版本	康熙字典 1716年 部首・画数	弘道軒 四号	夏目漱石 坊っちゃん 明治39年	通字体活字 明治41～ 大正3年	漢字 整理案 大正8年	文部省 活字 昭和10年	当用 漢字表 昭和21年	太宰治 人間失格 昭和23年	当用漢字 字体表 昭和24年	教育漢字 平成4年	参考
												報 現代中国
												奎 現代中国
塩												盐 現代中国
塊												块 現代中国
塞												塞 現代中国
												塑 現代中国